

鎌倉諏訪神社

JR 横須賀線の鎌倉駅から徒歩 5 分程度のところに「諏訪神社」がある。鎌倉市役所のすぐ前にある小さな神社である。裏山には木々が鬱蒼と生い茂っており、鎌倉という地にすっかり溶け込んでいる雰囲気だった。信濃の諏訪氏が、諏訪大社の祭神の分霊を鎌倉に移して祀ったのが始まりとされる。第 14 代執権北条高時の息子の北条時行は鎌倉幕府の後継者であったが、1333 年に鎌倉幕府が滅亡した後、有力御家人の諏訪氏に助けられて信濃へ逃れた。その後 1335 年に諏訪頼重らに擁立されて「中先代の乱」を起こし、短期間ではあるが鎌倉を奪還した。この背景として、北条氏と諏訪氏の結びつきが挙げられる。承久の乱(承久 3 年 122D は幕府軍の勝利に終わり、幕府の実権を手中に収めた北条氏は、信濃守護職を歴任した。北条氏の信濃支配は、一面では諏訪社を利用して行われていた。特に、承久の乱後、北条氏と諏訪上社大祝諏訪氏の結び付きは強まり、諏訪氏は北条氏に仕えて活躍した。諏訪上・下両社は、「信濃一の宮」と云われ、平安時代に国司の崇拝と保護を受けた神社であったが、鎌倉時代には、幕府の崇拝と保護を受け、軍神としての性格を持つようになった。北条氏は、鎌倉時代より諏訪大明神を氏神として、信濃と東北地方を一体化した。その為、東北地方にも諏訪神社が各所に造られ、多くの御家人が送り込まれた。更に諏訪一族と信濃の香坂高宗の一族は、親戚関係にあった。そもそも、高宗に宗良親王(後醍醐天皇の皇子。南北朝時代に南朝方として各地を転戦)を匿う様に勧めたのは、諏訪一族であったと云われている。鎌倉を奪還した時行は、20 日ほどで足利尊氏に鎌倉を奪われ逃亡する。その後も 2 度にわたって鎌倉を取り返すが、1353 年に処刑されて生涯を閉じた。(川端紅葉著 2024・9・4)



「鎌倉諏訪神社」 ©2024.9 川端紅葉